



若い世代の なるほど、ワクチン接種

新型コロナウイルス感染症が拡大しています。現在、市のワクチン接種は、12歳以上で本市の接種券がある方なら、誰でも予約できます。ワクチン接種は強制されるものではありませんが、接種することで、周りの方に感染を広げる可能性が低くなります。予防の効果と副反応のリスクなどを理解した上で、接種を検討ください。

問 新型コロナウイルスワクチン接種推進室 ㊟26-2111 (内線 541)

予約・問い合わせ
市ワクチン接種コールセンター
25-0211



最新情報はアプリでも配信
市のワクチン接種の最新情報は、市ウェブサイトその他、市公式アプリや市民メール、SNSなどでも配信します。登録をお勧めします。



市ウェブサイト
ワクチン
予約し隊

予約が取れなかった方へ
現在、12歳以上で恵那市の接種券のある方なら、誰でも予約できます。しかし、国からのワクチン供給量が減っており、予約が取れない状況です。
市では、ワクチンが供給されるとき、希望者に優先的に接種日程を知らせることができるよう、予約希望者リストを作成します。接種を希望する方は登録をお願いします。

登録方法

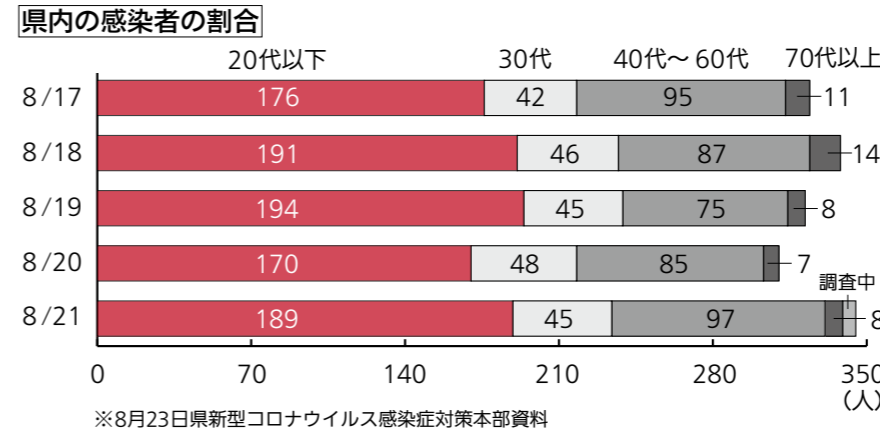
市ウェブサイトの「ワクチン接種予約し隊」応募フォームから申し込みください。難しい方は、コールセンターに電話ください。

感染の多くは20代以下



高齢者のワクチン接種が進み、第5波といわれる夏以降、高齢者の感染者割合が減り、若い世代の感染が増えています。

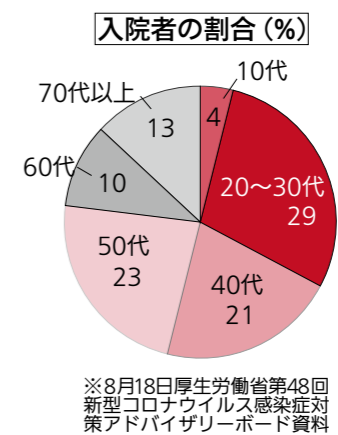
左のグラフは、県内の感染者が初めて300人を超えた8月17日からの、年代別感染者の割合です。20代以下の感染者が約半分を占めていることが分かります。



※8月23日県新型コロナウイルス感染症対策本部資料

若い世代も、入院している

若い年代は、感染者数が増えているだけでなく、重症化する人も増えています。左のグラフは、東京都の年代別入院患者の割合です。20代から50代が入院患者の約7割を占めていることが分かります。



※8月18日厚生労働省第48回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料

ワクチンの役割



現在、ワクチン接種が進んでいますが、ワクチンは、感染症にかかりにくくしたり、かかっても症状を軽く済ませるために接種するものです。接種したからといって、感染しないというわけではありません。

発症を予防する

しかし、今回のワクチンは、高い有効性が確認されています。臨床試験では、

- ファイザーII約95%
 - 武田/モデルナII約94%
- の発症予防効果が確認されています。

周囲に広げにくい

ワクチン接種後は、感染しても、ワクチン未接種で感染した方と比べ、無症状の割合が高い

- 症状のある期間が短い
- ウイルスを出す量や期間が少ない

ということが分かってきています。重症化しにくく、周囲にも感染を広げにくいと考えられます。

変異株への効果



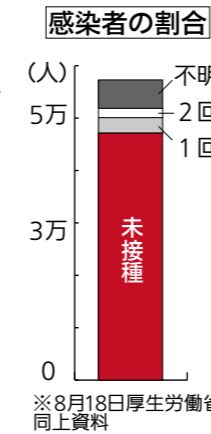
ウイルスは絶えず変異しますが、小さな変異でワクチンの効果がなくなるわけではありません。イギリスからの報告では、発症予防効果は

- アルファ株II約94%
- デルタ株II約88%

とされています。

感染者は8割が未接種

8月10日から12日に、感染者のワクチン接種状況を調べた調査では、感染者の約8割が未接種でした。



※8月18日厚生労働省同上資料

さまざまな変異株に対し、ワクチンがどれだけ有効かは、引き続き情報収集がされています。

副反応のリスクと、感染のリスク

接種後に出やすい副反応

注射した部分の痛み、倦怠感、頭痛、発熱などの副反応が出る可能性があります。1回目より2回目の方が強い傾向にあります。ただし、ほとんどが2から3日以内に回復しています。重いアレルギー反応（アナフィラキシー）は、100万回当たり5件報告されています。また、心筋炎が100万回当たり1.1件報告されています。接種後の死亡は834件報告されていますが、ワクチンとの因果関係は否定されています。

「軽症」は軽いかもれない

新型コロナウイルスは、若い世代は重症化しないといわれてきました。しかし、一般に抱く「軽症」のイメージとは異なり、38度を超える高熱が出て、せきが2週間続いても「軽症」、酸素吸入が必要になっても「中等症」なのです。

また、嗅覚や味覚障がい、疲労感、記憶障害など、長引く後遺症に苦しむ方もいます。

県内では、40代の死亡例も報告されており、注意が必要です。

ワクチンの仕組みと体への影響

体への長期間の影響

新型コロナウイルスワクチンは、m(メッセンジャー)RNAという新しい仕組みのワクチンですが、その技術自体は20年以上前から研究されてきました。mRNAは壊れやすく、数分から数日で分解されます。そのため体内に残ったり、遺伝情報(DNA)に組み込まれたりすることはないと考えられています。

その情報は正しいですか

ワクチンに関するさまざまな情報は、インターネットやSNSに飛び交っています。

例えば、ワクチンによって死亡する、流産が増える、妊娠できなくなる、遺伝情報が組み替えられるなどです。厚生労働省ウェブサイトでは、それらを否定しています。

ワクチンなどに関する情報は、友人が言った、SNSで見たというだけでなく、専門家のチェックを受け、科学的根拠に基づいた情報源で確認しましょう。

妊娠中の方へ

妊娠初期・中期に感染しても胎児に異常を起こすという報告はありませんが、後期に感染すると、一部早産率が高まるという報告があります。妊娠中の方も、ワクチン接種の利益がリスクを上回るとされています。接種を希望する方は、主治医に相談ください。

予約が取れず困った時は、健康推進課(内線279)に相談ください。

※4~5ページは、厚生労働省ウェブサイトを元に制作しています
※8月25日時点の情報です